



Title	活動報告 長崎被爆・戦後史研究会
Author(s)	
Citation	長崎大学核兵器廃絶研究センター年報, 2017, pp.87-88; 2018
Issue Date	2018-04-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/38405">http://hdl.handle.net/10069/38405</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-24T20:39:18Z

<活動報告>

## 長崎被爆・戦後史研究会

▽広瀬 訓

今年度から、桐谷客員研究員を中心として、RECNAは「長崎被爆・戦後史研究会」を発足させた。研究会のテーマは「広島・長崎の被爆問題と復興史、及び、被爆体験とその継承について」である。

1945年8月9日、長崎に原子爆弾が投下され、原子雲の下で多くの命が犠牲となってから72年が経つ。戦後長崎においては、市民や研究者たちによって、運動や学問の場で、核兵器廃絶と世界平和へ向けた知的営為が生み出されてきた。その原点にある思想は、核兵器を投下する側の議論ではなく、核兵器によって被爆した体験者の声に他ならない。

戦後72年という年月の中で取り組まれてきた、記録や研究の数々を、被爆地から生まれた人類の知的遺産として受け止め、その意義を検討する。

本研究会は具体的な実践の場として、長崎の問題に取り組んできた研究者や市民運動家、有識者たちを招聘し、報告を聞き、参加者を含めて自由な討論を行う。その作業を通して、長崎の被爆体験と戦後史から、被爆を直接体験していない世代が継承すべき課題と意義を明らかとする。

研究会は、テーマに関心のある研究者や市民たちを対象とし、招待参加として人数を限り(20名程度)、少人数制の研究会とする。会合は「チャタムハウスルール」で開催することを原則とし、当面2年間の予定で設置する。

## 平成29年度長崎被爆・戦後史研究会

【第1回】 日 時：平成29年6月2日（金）18：30～20：30

場 所：RECNA 会議室

講 師：高橋 眞司

（長崎総合科学大学「長崎平和文化研究所」客員研究員）

テーマ：「長崎にあつて哲学する ―その発端・構想・展望」

【第2回】 日 時：平成30年3月15日（木）14：00～16：00

場 所：RECNA 会議室

講 師：深谷 直弘

（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任助教）

テーマ：長崎における〈原爆〉の継承実践とその意義

―幼児期に被爆した世代の活動と若者の活動を中心に―